

# 全国共同利用 大型計算機システム利用の手引き（手続き・概要編）

本利用の手引きは、東京大学情報基盤センターで全国共同利用の計算サービスを提供するスーパーコンピュータを中心とした「大型計算機システム」を利用するための手続き、及び、サービスコンテンツの概要部分のみを抽出し、本誌「スーパーコンピューティングニュース」用に構成したものです。

## 1．情報基盤センターの概要

### 1.1 はじめに

1999年4月1日より、東京大学大型計算機センター及び、同教育用計算機センターの全部と、同附属図書館の一部を統合・再編（改組転換）し、東京大学情報基盤センター（以下「本センター」という）が設立されました。

本センターは、「東京大学に、研究、教育等に係る情報化を推進するための実践的調査研究、基盤となる設備等の整備及び提供その他必要な専門的業務を行う全国共同利用施設として、情報基盤センターを置く。」（国立学校設置法施行規則第二十条の四の五）とされており4研究部門と情報業務部及び事務部とで構成され、学内共同利用として3支援業務、全国共同利用として1支援業務の計4支援業務を担う組織であり、東京大学大型計算機センターで行っていたサービス業務は「スーパーコンピューティング支援業務」として引き継がれています。

	支援業務
学内共同利用	1． 情報メディア教育支援業務 2． 図書館電子化支援業務 3． キャンパスネットワーキング支援業務
全国共同利用	4． スーパーコンピューティング支援業務

### 1.2 沿革

前述のとおり、本センターのスーパーコンピューティング支援業務は、東京大学大型計算機センターから継承しています。

東京大学大型計算機センターは、1965（昭和40）年4月に発足し、1966（昭和41）年4月には全国の国・公・私立大学等の研究者に対し、学術研究のための利用に供することを目的とする最初の全国共同利用大型計算機センターとして設置されました。その後、東北大学、京都大学、大阪大学、北海道大学、名古屋大学、九州大学にそれぞれ大型計算機センターが設置されました。これら7大学に設置された全国共同利用大型計算機センターは、相互に連携を保ちながらほぼ同様の運営方式をとるとともにそれぞれ独自の計算機システムによる特色のあるサービスを行っています。

なお、東京大学大型計算機センターは1999（平成11）年3月末で改組転換され、同年4月より東京大学情報基盤センターが発足しました。大型計算機センター発足以来の計算機システムの推移と代表的なトピックスは次のとおりです。

- 1965（昭和40）年 4月 東京大学大型計算機センター発足
- 1966（昭和41）年 1月 HITAC 5020 システム正式稼働
- 1973（昭和48）年 1月 HITAC 8800/8700 システム正式稼働
- 3月 初のリモートバッチ端末（千葉大学リモートステーション）開設

- 1975 (昭和 50) 年 6 月 オンライン情報検索システム TOOL-IR 正式サービス開始
- 10 月 公衆網 (電話回線利用) TSS 正式サービス開始
- 1976 (昭和 51) 年 7 月 京都大学との間で大学間コンピューターネットワークの連動試験成功
- 1980 (昭和 55) 年 11 月 副システムとして UNIX OS の VAX11/780 導入
- 1981 (昭和 56) 年 1 月 HITAC M-200H 4 システム疎結合 (8 CPU) にて稼働開始
- 10 月 大学間コンピューターネットワーク (通称 N-1 ネットワーク) 正式運用開始
- 1984 (昭和 59) 年 1 月 ベクトル型スーパーコンピューター HITAC S-810/20 正式稼働開始
- 1986 (昭和 61) 年 4 月 全国 7 大学大型計算機センターの共通利用番号制実施
- 1987 (昭和 62) 年 10 月 国際電子メール (CSNET) サービスの正式運用開始
- 1988 (昭和 63) 年 1 月 HITAC S-810/20 から HITAC S-820/20 に入れ替え
- 1992 (平成 4) 年 12 月 東京地域アカデミックネットワーク (TRAIN) 正式運用開始
- 1993 (平成 5) 年 2 月 HITAC S-820/20 から HITAC S-3800/480 に入れ替え
- 3 月 汎用大型コンピューターにおける UNIX の正式運用開始
- 6 月 ベクトル型スーパーコンピューターにおける UNIX の正式運用開始
- 1996 (平成 8) 年 5 月 超並列型スーパーコンピューター HITACHI SR2201 正式運用開始
- 1999 (平成 11) 年 2 月 HITAC S-3800/480 から HITACHI SR8000 入れ替え
- 4 月 東京大学情報基盤センター発足

表 . 各年代における計算機システムの主記憶、拡張記憶並びに演算性能

汎用コンピューター (主システム)		
1966 ~ 1973	HITAC 5020(16KW)/ 5020E(65KW) + HITAC 5020(32KW) (1W = 4 Byte)	
1973 ~ 1980	HITAC 8800×3 + HITAC 8700×1 (8MB)	
1980 ~ 1982	HITAC M-200H ×8 (64MB)	
1982 ~ 1986	HITAC M-280H ×6 (192MB)	
1986 ~ 1990	HITAC M-680H (128MB) + HITAC M-682H ×2 (384MB)	
1991 ~ 1996	HITAC M-880/310 (MS:1GB, ES:4GB) + HITAC M-682H (256MB)	
1996 ~	HITACHI MP5800/320 (MS+ES:10GB)	
ベクトル型スーパーコンピューター		
1983 ~ 1987	HITAC S-810/20 (MS:256MB, ES:512MB)	理論最大性能 800 MFlops
1988 ~ 1993	HITAC S-820/80 (MS:512MB, ES:6GB)	理論最大性能 3 GFlops
1993 ~ 1999	HITAC S-3800/480 (MS:2GB, ES:16GB)	理論最大性能 32 GFlops
超並列型スーパーコンピューター、ベクトル並列型スーパーコンピューター		
1996 ~	HITACHI SR2201 (1024 ノード, 256MB/ノード)	理論最大性能 307.2 GFlops
1999 ~	HITACHI SR8000 (256 ノード, 8GB/ノード)	理論最大性能 1024 GFlops
副システム		
1980 ~ 1985	VAX11/780 (4MB)	
1985 ~ 1990	VAX8600 (20MB)	
1991 ~ 1996	DECsystem 5830 ×2 + DECsystem 5820 (512MB)	

MS: 主記憶装置 (Main Strage) , ES: 拡張記憶装置 (Extended Strage)

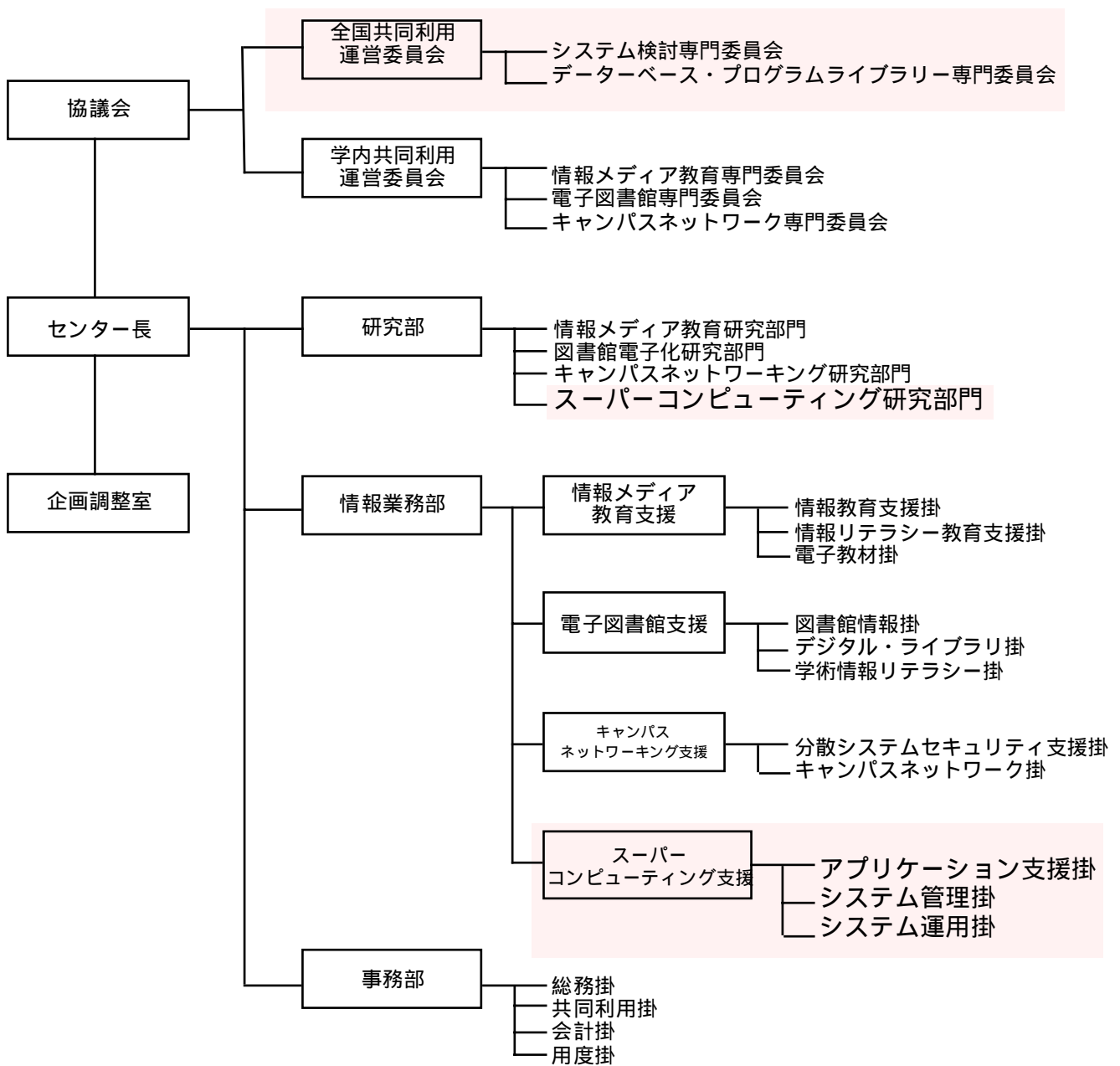
### 1.3 情報基盤センターの機構

本センターは4研究部門からなる研究部、研究部と一体となってサービスを行う4支援部門からなる情報業務部及び事務部とで構成されます。

また、センター運営の重要事項を審議するため、全国共同利用運営委員会と学内共同利用運営委員会の2つの運営委員会が設置されており、この運営委員会の下には、それぞれ専門事項を審議するため専門会が設けられています。

なお、全国共同利用運営委員会は東京大学内委員及び、学外委員がほぼ同数で構成され、高性能計算機にかかる全国共同利用の運営に関する重要事項はここで審議されます。

[情報基盤センター組織図]



全国共同利用に係るスーパーコンピューティング支援セクション

## 2. 全国共同利用大型計算機センターの利用者組織

「1.2 沿革」に記しましたように東京大学大型計算機センターは改組転換され東京大学情報基盤センターとなりました。以降の説明では、「大型計算機センター」の表記は、ほとんどの場合、「6大型計算機センターに東京大学情報基盤センターを加えた7センターを示す」の意味です。また、「本センター」の表記は「東京大学情報基盤センターに設置されている全国共同利用の大型計算機システム」あるいは「東京大学大型計算機センター」の意味で記述している場合がありますので、適宜読み替えて下さい。

### 2.1 大型計算機利用者協議会

(1) 全国共同利用大型計算機センターは、本センターを含め全国7大学に設置されていますが、利用者の便宜をはかり、また利用者の意見を大型計算機センターの運営に反映させるために、全国を下記のように地区分けし、各地区ごとに大型計算機利用者協議会（「地区協」と略称される）を設けています。

地区協	地域（都道府県）	設置場所	電話
第1.北海道地区	北海道	北海道大学 大型計算機センター	(011)706-2956
第2.東北地区	東北全域	東北大学 大型計算機センター	(022)227-6200
第3.東京地区	関東甲信越全域 静岡	東京大学 情報基盤センター	(03)5841-2717
第4.東海地区	愛知、岐阜、三重	名古屋大学 大型計算機センター	(052)789-4354
第5.京都地区	京都、滋賀、福井 石川、富山、鳥取、島根	京都大学 大型計算機センター	(075)753-7407
第6.大阪地区	大阪、奈良、兵庫 岡山、和歌山、四国全域	大阪大学 大型計算機センター	(06)879-8807
第7.西日本地区	九州全域、山口 広島、沖縄	九州大学 大型計算機センター	(092)641-1101 内線 2505

- (2) 各地区内に所在する大学、短期大学、高等専門学校、文部省所轄研究所等ごとに本センター（各大型計算機センター）を利用するために設置された連絡所のことを地区協の会員といたします。
- (3) 地区協は主として次の事務を行っており、第3地区協は本センター内（事務取扱い：共同利用掛）に設置されています。
- a)連絡所の登録、変更、廃止
  - b)本センター（各大型計算機センター）利用のための連絡、調整、広報活動及び情報交換等

## 2.2 連絡所

連絡所とは、利用者と本センター（大型計算機センター）間の連絡と情報交換などのために設置されているもので、研究者等が本センターまたは、6大学の大型計算機センターを利用しようとする場合は、必ずいずれかの地区協に登録されている連絡所に所属していなければなりません。

したがって、所属の大学等に連絡所が設置されていない場合は、先ず地区協に対して開設手続きを行い、新規に連絡所を登録（2.3参照）する必要があります。

なお、第3地区協の連絡所は次の事務を行っています。

- (1) 本センター（各大型計算機センター）利用のための連絡及び情報交換等
- (2) 連絡所付きプログラム指導員の推薦
- (3) 利用申請書用紙のユーザへの配付
- (4) センターからの新規利用申請承認書、継続利用申請承認書のユーザへの配付
- (5) 経理責任者別登録状況報告書の配付
- (6) その他

## 2.3 連絡所の登録・変更・廃止

連絡所を登録する場合は、所属の地区協に所定の「入会申込書」を提出して下さい。また、変更・廃止をする場合も届出が必要です。

第3地区の場合は、本センター内設置の地区協（事務取扱い：共同利用掛）へ提出します。

## 3. 利用するための手続き

### 3.1 利用資格

本センターの利用資格は、学術研究等に供することを目的とし、その成果が公開され得るものとされています。

したがって、本センターを利用できる者は、次の者とされています。

- (1) 国・公・私立大学の教員及びこれに準ずる者
- (2) 文部省所轄機関（国立学校を除く）の研究職員
- (3) 学術研究を目的とする研究機関で、本センター長が認めた機関に所属し、もっぱら研究に従事する者
- (4) 文部省所管の科学研究費補助金で研究を行う者
- (5) 上記のほか、特に本センター長が適当と認めた者

注1. (1)の国・公・私立大学の教員には、大学共同利用機関、大学附属研究所、短期大学及び高等専門学校等の教員を含みます。また、「これに準ずる者」とは、大学等の教務職員、大学院学生等です。

注2. (3)に該当する者は、主として研究員、日本学術振興会特別研究員等です。

注3. (5)の「特に本センター長が適当と認めた者」としては、現在のところ下記のようなものがありますが、1を除いては試行中のものですから、これにより利用を希望される方は、条件等について共同利用掛へ直接お問い合わせ下さい。

大学等の図書館職員によるデータベース検索  
他省庁の研究機関に所属する研究員  
大学等が受入れた受託研究員

注4. 利用資格はあっても、支払経費（「3.2利用できる支払経費」参照）によっては利用を認められない場合があります。

### 3.2 利用できる支払経費

本センターの計算機利用については利用負担金（「5.利用負担金制度」参照）が課せられ、以下の経費でのみ支払うことができます。利用できる支払経費の種類を支払費目といたします。

支払費目	添付資料	利用期限	継続申請
国立学校校費		年度末	可
国立学校研究所校費		年度末	可
国立大学附属病院校費		年度末	可
公立学校経費		年度末	可
私立学校経費		年度末	可
文部省科学研究費補助金		2月中旬	不可 (注1)
委任経理金		年度末	可
産学連携等研究費	契約書の写し	2月中旬	不可
文部省所轄研究所経費		年度末	可
日本学術振興会研究費		2月中旬	不可

担当・共同利用掛 03-5841-2717

注1： 文部省科学研究費補助金の継続利用はできませんが、数年次にわたる課題研究で次年度確約されているものについては、所属機関長等の承認を得られれば4月1日より利用することが可能です。

この支払経費は「利用負担金見込額」として登録することになります。この「利用負担金見込額」は、あくまでも利用するための目安でしかなく、実際に計算機を利用した分が請求されます。

### 3.3 共通利用番号制と利用申請手続き

#### 3.3.1 共通利用番号制

本センターと6大学（北大・東北大・名大・京大・阪大・九大）の大型計算機センターに学術情報センターを含めた8センターでは、「共通利用番号制」を実施しています。

この8センターによる共通利用番号制は、本センターまたは、6大学の大型計算機センターの何れか一つのセンターへ書類により利用申請し、共通利用番号の交付を受けていれば、他の6大型計算機センターと学術情報センターへは、書類なしの簡単な手続きで利用申請ができます。

共通利用番号制の利用申請手続きは、まず主に利用するセンターを一箇所選び、そのセンターへ書類で利用申請を行って「共通利用番号」の交付を受けます。さらに、他のセンターも利用する場合は、共通利用番号の交付を受けたセンターの計算機システムから「他センターへの利用申請を行うコマンド」を発行します。このように、書類で利用申請を行い共通利用番号の交付を受けたセンターを「所属センター」と呼び、それ以外の7センターを「第二センター」と呼びます。そして他センターへの利用申請を行うコマンドを「第二センターへの利用申請コマンド」といいます。

### 3.3.2 所属センターとしての利用申請手続き

本センターを所属センターとして利用するためには、まず本センターの「大型計算機システム利用申請書」（学部学生の方は「卒業研究のための大型計算機システム利用申請書」）に必要事項を記入の上、本センター総合受付に提出して下さい。

センターでは利用資格、研究課題、利用内容等を審査し、適当と認められた方に利用者番号を発行し、『利用承認通知書』で通知します。

大型計算機システム利用申請書は、支払費目（国立学校校費・私立学校経費・文部省科学研究費補助金等）ごとに提出して承認を受ける必要があります。この申請から承認までの流れは下図のようになっており、計算機利用承認通知書の交付までの所要日数は「大型計算機システム利用申請書」を本センターで受理してから約1～2週間となっています（時期により、多少遅れることがあります）。



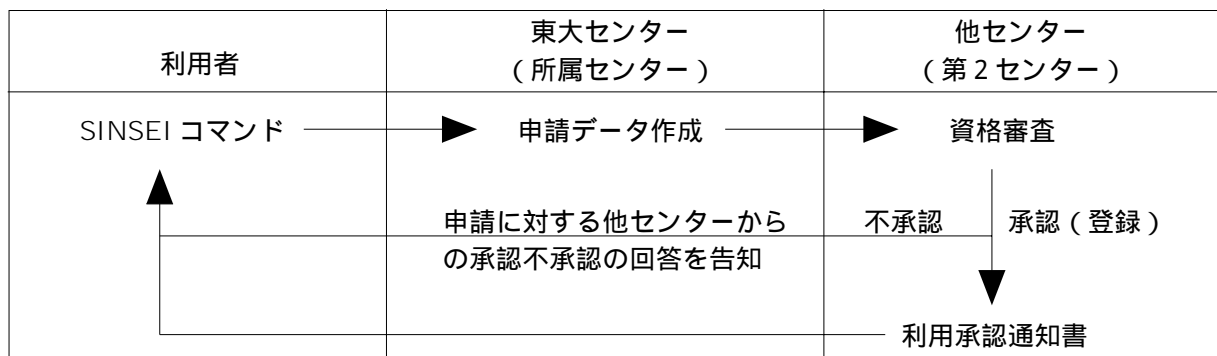
- (1) 大型計算機システム利用申請は、本センターの総合受付、各地区協（2.1参照）及び第3地区内の各連絡所に常備されていますので、その何れかで入手して下さい。
- (2) 大型計算機システム利用申請書の記入に際しては、大型計算機システム利用申請書の留意事項及び添付書類『東京大学大型計算機センターの利用に関する暫定措置を定める規程』を熟読の上記入して下さい。

### 3.3.3 第二センターへの利用申請手続き

本センターを所属センターとしている利用者で、更に共通利用番号制を実施している他の7センターを第二センターとして利用したい場合は、本センターの汎用大型コンピューターシステム（OS: VOS3システム）上の「SINSEI コマンド」を発行（実行）することにより第二センターの利用申請手続きが行えます。

SINSEI コマンドは、第二センターに対しての新規申請のほか、利用取消、利用見込額（予算）の増額（減額は不可）、年度末における次年度への継続申請ができます。いずれの場合も利用者自身がSINSEI コマンドを発行（実行）することにより第二センターに対して申請手続きが行われます。

なお、本センターからの第二センターへの申請の流れは下図のようになっています



## 第二センターへの利用申請コマンド

SINSEI コマンドの形式は次のとおりです。コマンドの詳細は、本センター発行の手引『コマンドマニュアル第5版』の SINSEI コマンドを参照、あるいは、オンラインマニュアルを参照 (>>MANUAL SINSEIを実行) して下さい。

コマンド名	オペランド
SINSEI 又は SHINSEI	第二センター名 * 1 ,利用見込額 * 2 [ ,KUBUN( <u>SINKI</u>   HENKOU   TORIKESI   KEIZOKU ) ] [ ,ACCOUNT(支払いコード) ] [ ,NEWS( Y   <u>N</u> ) ]

\* TORIKESI : 該本センターの利用を取り消すときに指定する。

\*1 第二センター名は、次の中から一つ選んで指定する。

HOKKAIDO (北大センター)      OSAKA (阪大センター)  
TOHOKU (東北大センター)      KYUSHU (九大センター)  
NAGOYA (名大センター)      NACISIS (学術情報センター)  
KYOTO (京大センター)

\*2 利用見込額は 1,000 円を 1 単位として指定する。20 と指定すると 20,000 円の申請となる。

[ 参考 ] 本センターを第二センターとして利用する場合は、所属センターとしている他の大型計算機センターの手続きに従って、「第二センターへの利用申請コマンド」を東大センターに向けて発行(実行)して下さい。なお、本センターは、基本負担金(最低 1,000 円/月)制ですので、通年では最低 12,000 円/年の負担金がかかります。(「5.2 利用負担金の額と計算方法」参照)

### 各センターの「第二センターへの利用申請コマンド」のコマンド名

センター名	北大	東北大	東大	名大	京大	阪大	九大
コマンド名	PLANET	SHINSEI	SINSEI SHINSEI	SINSEI2	APPLY	APPLY	SINSEI

注意：学術情報センターを所属センターにしている利用者は、学術情報センターから他の7センターを第二センターとして申請することはできません。

## SINSEIコマンド使用例

例1. 北海道大学大型計算機センターを第二センターとして、利用見込額 15,000 円、支払いコード A、センターニュース(広報) 不要で新規申請する。

>> SINSEI HOKKAIDO,15,KUBUN(SINKI),ACCOUNT(A),NEWS(N)

例2. 北海道大学大型計算機センターの利用見込額(支払いコード A)を新規申請時の 15,000 円から 20,000 円増額して 35,000 円に、またセンターニュースを不要から必要に既申請の内容を変更する。

>> SINSEI HOKKAIDO,20,KUBUN(HENKOU),ACCOUNT(A),NEWS(Y)



使用例中の ">>" は、本センター VOS3 システム上のプロンプティング文字（計算機側から出力される文字で、コマンドの入力を要求している記号）です。したがって、">>"以降を利用者側で入力します。また、本コマンドは対話式になっているため、" SINSEI " とだけ入力し、その後はメッセージに従って入力することも可能です。

#### 第二センター利用申請時の注意事項

- (1) 第二センターへの利用申請手続きは、利用者自身が「SINSEI コマンド」を発行（実行）するだけでよく、利用申請書等の書類提出は通常必要ありません。ただし、利用資格（身分）や支払費目の審査は各センター間で異なる部分がありますので、第二センターの利用が認められない場合や第二センターから追加資料等の書類を求められることがあります。
- (2) 第二センターの利用見込額は、所属センターに申請した利用見込額からの移し替えとなります。ただし、一旦移し換えた第二センターの利用見込額は減額変更できませんので注意して下さい。また、センターによっては最低利用見込額が異なる場合がありますので、利用見込額の移し替え時にご注意下さい（北海道大学：基本サービス経費として 12,000 円、大阪大学：基本負担額として 2,000 円が登録時に課金されます）。なお、詳細は各センターにお問い合わせ下さい。
- (3) 第二センターの利用期限は所属センターの利用期限の範囲内となっていますので、所属センターで登録が取り消された場合は、第二センターでも自動的に取り消されます。
- (4) 第二センター登録の取り消しを行うと、その年度内はそのセンターを利用することができません。
- (5) 第二センター側で申請を承認するまでの所要日数は各センターにより異なりますが、本センターの SINSEI コマンドを発行してから通常 2 ～ 3 日位かかり、利用承認通知書が届くのは更に 1 ～ 2 日を要します。

### 3.3.4 文部省科学研究費補助金（科研費）による利用申請手続き

- (1) 文部省科学研究費補助金（以下、科研費と略します。）を支払費目にした利用申請は、当該科研費の交付決定後となっていますが、研究計画遂行上、それ以前に本センターの利用を希望する場合は、特に内定通知があった段階から利用申請を行うことができます。  
なお、本誌「スーパーコンピューティングニュース」11月号に最終利用負担金の請求についての記事が掲載されますのでご注意下さい。
- (2) 科研費での利用申請は、科研費の課題番号毎に大型計算機システム利用申請書を提出します。また、年度を越えての継続利用はできません。したがって、複数年度に渡る課題番号でも年度毎に新たに利用申請する必要がありますが、2年次以降で内定が確約されている課題については、所属機関長の承認が得られれば4月1日からの利用が可能です。
- (3) 科学研究費以外にも支払費目を登録している場合、支払費目毎に割り当てられた支払いコードを指定して計算機を利用することになります。支払いコードの指定を誤って利用した場合でも、他の支払費目に振替えることはできません。利用見込額を上回る利用や支払いコードの指定には十分注意して下さい。
- (4) 科研費による利用期限は例年2月中旬までとなっており、その場合の最終利用負担金の請求（納入告知書の発行）は2月下旬になります。また、経理の都合等によりそれ以前に支払いを済ませたい場合は、計算機利用申請時に、大型計算機システム利用申請書の「希望利用期限」欄に2月以前の月末を指定して下さい。その場合の最終利用負担金の請求は、指定した期限の翌月中旬となります。なお、利用期限は付録の『大型計算機システム届出書』による「利用登録取消」の提出により変更することができます。

### 3.3.5 継続利用の申請手続き

本センターの利用期限は、通常年度末の3月末日となっています（支払費目によってはそれ以前もあります）。したがって、年度を越えて次年度も引き続き利用するためには、決められた期間内に継続利用の申請手続きが必要です。

#### (1) 所属センターの継続手続き

本センターを所属センターとしている場合、当該年度の登録内容の一部が記載された『計算機利用申請書（継続）』を2月上旬に送付しますので、必要事項を記入し決められた日付までに継続手続きを行って下さい。通常は2月末日です。なお、支払費目によっては継続できないものがあります（「3.2 利用できる支払経費」の表参照）。

#### (2) 第二センターの継続手続き

第二センターの継続手続きは、所属センターの継続申請が承認されてから「第二センターへの利用申請コマンド」を発行して継続手続きを行います。

したがって、本センターを所属センターとしている場合は、(1)の手続きにより本センターでの継続利用の承認通知書を受け取った後、利用者自身でVOS3システム上の「SINSEI コマンド」（「3.3.3 第二センターへの利用申請手続き」参照）を使って、第二センターへの継続申請を行って下さい。

また、本センターを第二センターとしている場合は、各々の「所属センター」で継続手続きを行い、継続申請が承認された後、所属センターの計算機システムから「第二センターへの利用申請コマンド」（「3.3.3 の第二センターへの利用申請手続き」参照）を本センターへ向けて発行して下さい。

なお、第二センターの継続申請受付期間は通常3月中旬までです。受付期間の詳細は、各センターのオンラインニュースや本誌「スーパーコンピューティングニュース」等の広報誌で確認して下さい。

#### (3) 継続申請が承認された場合、磁気ディスク上の保存ファイルは年度を越えて使用することができますが、それ以外の場合の保存ファイルは、3月末日に本センターにおいてすべて消去しますので注意して下さい。

### 3.3.6 所属変更の手続きについて

人事異動等に伴って利用者の所属に変更が生じた場合でも、引き続き本センターの利用資格がある場合は、利用者番号を継承することができます。

利用者番号の継承を希望される方は、以下の手続きが必要となります。

#### (1) 本センターを所属センターとしている方

「大型計算機システム利用申請書」と「大型計算機システム届出書」を本センター総合受付まで提出して下さい。

大型計算機システム利用申請書：申請区分は「追加」で現在の所属（新しい所属）で各項目を記入して下さい。

大型計算機システム届出書：申請区分は「利用登録取消」で異動前の所属を記入して下さい。

上記手続きにより、新所属先の支払いコードが追加され、旧所属の支払いコードは申請月の月末処理日に取り消されます。新支払コードによる計算機の利用は申請後1週間程度で可能となりますが利用承認通知書（追加）は申請月の翌月に発行されます。なお、第二センターを利用されている方は、新支払いコードでのSINSEIコマンドの発行が必要となります。詳しくは共同利用掛(03-5841-2717)までお問い合わせ下さい。

(2) 本センターを第二センターとしている方

所属センターにおいて必要な手続きをとったあとで、本センターに対して申請コマンドを発行して下さい。なお、手続きの詳細につきましては、所属センターにお問い合わせ下さい。

注意：本センターでは、異動前の支払いコードの取り消しは月末処理日に行っています。従って、新支払いコードの追加後から月末処理日までの間は、複数の支払いコードが存在することになります（新たに追加した支払いコードに対しても定額基本負担金がかかります）。この間に計算機を利用される場合は、支払いコードに十分注意して下さい（短期ファイル、プリンタ出力等の負担金は標準支払いコードより課金されます。標準支払いコードを変更する場合は、「5.5 標準支払いコード（課金番号）の変更」を参照して下さい）。

### 3.3.7 利用申請の承認

(1) 共通利用番号の交付と利用承認通知書

『大型計算機システム利用申請書』が提出されると、申請者の利用資格、目的等に関して審査し、適当と認められた者に対しては、計算機システムのアクセスに必要となる「共通利用番号」が交付され、パスワードや利用期限等がともに記載されて『利用承認通知書』が送付されます。

(2) 共通利用番号（登録番号）の形式

共通利用番号（登録番号とも呼ぶ）は、利用者番号6桁と支払いコード1桁を合わせた7桁の英数文字列で構成されています。第二センターの利用申請はこの共通利用番号で申請します。

[例] 登録番号 N 3 1 0 0 0 A

利用者番号 支払いコード

利用者番号は共通利用番号制の下で利用者個人を識別するために割り当てられる6桁の番号で、冒頭の英字がその番号の発行年次を、左から2番目の数字は所属センターの地区コード（0～7）を表わし、3～6番目の数字はユニーク通し番号となっています。

なお、利用者番号は計算機システムにアクセスする際のユーザ番号としても使います。

### (3) パスワード

パスワードは計算機システムにアクセスする際に必要となる合言葉で、ユーザ番号と一対になって登録されています。アクセスしようとするユーザ番号が許可された本人であるか否かを計算機システムが識別するために利用されます。これにより、計算機システム内に登録されている利用者の個人情報（予算やファイル）の保護をはかっています。したがって、パスワードは申請者本人と計算機システムだけが知っていればよい訳ですから、第三者に知られないよう十分な注意と管理が必要です。

なお、利用者番号交付時に与えられるパスワードの初期値は、8文字の英大文字を設定してありますが、パスワードの変更は自由です。事故防止のため、利用者自身の責任において適宜変更して下さい。

計算機システムへのアクセスには、ユーザ番号とパスワードが必要になります。このユーザ番号は、VOS3 システムでは TSS ジョブの LOGON コマンド及びバッチジョブの JOB 制御文に指定する USER-ID、UNIX システムでは newuser コマンドで login 名を登録する時に使用する VOS3-ID となります。

LOGON SCALARF

JET12012A ENTER USERID -

N30000

USER-ID を入力

JET12026A ENTER PASSWORD FOR N30000 -

\*\*\*\*\*

パスワードを入力（表示されない）

JDT253I N30000 LAST EXECUTION DATE=1999.05.06 TIME=11.20.23

JET10065I TSS N30000 STARTED TIME=10:45:32 DATE=99-05-06

WELCOME TO MP5800.

YOUR LAST ACCOUNT (USED:¥117540 BUDGET:¥2000000)

>>

注) 他センターでは利用者番号（6桁）に支払いコード（1桁）を含めた7桁をユーザ番号としているところもあります。

### (4) 支払いコード

支払いコードは利用負担金の支払費目を識別する記号のことで、支払費目により下表の記号が割り当てられます。複数の支払費目で利用する場合には、一つの利用者番号で複数の支払いコードを持つことになります。

支払費目	支払いコード	支払費目	支払いコード
国立学校校費等	A ~ F	文部省科学研究費	K ~ T
公立学校校費等	G ~ J	その他（産学連携等研究費，委任経理金等）	U ~ Z 0 ~ 9

なお、複数の支払いコードを持つ場合の VOS3 システムへのアクセスは、どの支払いコードに課金するかをアクセス毎に支払いコードで指定します。支払いコードの指定がなかった場合、TSS ジョブでは問い合わせてくれますが、バッチジョブでは標準支払いコードが仮定されます（標準支払いコードの変更方法は、「5.5 標準支払いコード（課金番号）の変更」を参照）。

#### (5) 利用期限

利用期限は、校費で支払うものは年度内に限り有効であり、科学研究費・産学連携等研究費等によるものは2月中旬頃までとなっています。

また、第二センターの利用期限は所属センターの利用期限の範囲内となっていますので、所属センターで登録が取り消された場合は、第二センターでも自動的に取り消されます。

#### (6) VOS3 システム利用時のセットアップ処理

利用者番号が交付された時点から本センターの利用者となりますが、実際に VOS3 システムを利用するためには、セットアップ処理（計算機システムを使うための環境設定作業で利用者毎に必要となる操作）を必要とします。ただし、このセットアップ処理は利用者番号が交付された時点で一度だけ行えばよいので、センター側が利用者番号交付の際に代行しています。

このため、利用者番号が交付された月は利用者自身による計算機利用の有無に関係なく、セットアップ処理に要した CPU 時間（約 1 秒）が CPU 積算されています。また、同時に 58KB の "SYSPROF" という名前の長期保存データセットが作成されます。これは、計算機システムを便利に利用するための個人情報記憶されるデータセットです。

### 3.3.8 トークンカード

トークンカードは、本センターに来館して計算結果等をプリンタ出力するときに必要なカードです。

トークンカードを必要とされる方（来館して利用される方）は、利用承認されたあと総合受付の窓口で、申請者本人が利用承認通知書及び身分証明書を提示して受領して下さい（ただし、委任状を持参された場合に限り、代理人でも受領することができます）。

### 3.3.9 UNIXシステムへの利用登録

VOS3 OS 以外に UNIX OS のサービスを行っております。利用される際には、以下の登録手続きを行って下さい。

なお、利用可能ホストは以下の通りです。

m-unix	汎用大型機コンピューター MP5800 上で動いているUNIX。 OS は HI-OSF/1-MJ。
sr8000-s	ベクトル並列型スーパーコンピューター SR8000。OS は HI-UX/MPP。 ( sr8000-s に利用登録すると同時に sr8000-p も利用登録されます。 )
scalar-mpp	超並列型スーパーコンピューター SR2201。OS は HI-UX/MPP。
macsyma	Macsyma を利用するための WS (login できない)。
mathematica	Mathematica を利用するための WS (login できない)。
frontend	MSC/NASTRAN のプリ・ポストプロセッサを利用するための WS (login できない)。
x-controller1	センター内の X 端末を利用するための WS。
io-controller	センター内にある QIC・DAT・8mm などの磁気テープメディアを利用する ための WS。
cross-compiler	クロスコンパイル用 WS (login できない)。

telnet 等で m-unix に接続します。

```
myhost% telnet m-unix.cc.u-tokyo.ac.jp
Trying 130.69.241.99...
Connected to m-unix.cc.u-tokyo.ac.jp.
Escape character is '^]'.

HI-OSF/1-MJ (m-unix.cc.u-tokyo.ac.jp) (tty1)

login:
```

newuser で login します。

VOS3 ID と VOS3 Password を入力します。このとき、

- ・平成6年度から7年度へ継続した方は平成7年度運用開始日時点での文字パスワード
- ・平成7年度以降に新規登録された方は利用承認通知書に記載されている文字パスワード

を小文字で応答します。

```
login: newuser

System Registration Command

Enter Your (VOS3) Login name : n30000      VOS3 ID を小文字で入力
Enter Your (VOS3) Password : password    VOS3 パスワードを小文字で入力
```

登録可能ホストの一覧が表示されるので利用を希望するホストを指定します。

Host Number	Host Name	Host Description
1	* m-unix.cc.u-tokyo.ac.jp	
2	sr8000-s.cc.u-tokyo.ac.jp	
3	frontend.cc.u-tokyo.ac.jp	
4	x-controller1.cc.u-tokyo.ac.jp	
5	io-controller.cc.u-tokyo.ac.jp	
6	scalar-mpp.cc.u-tokyo.ac.jp	
7	mathematica.cc.u-tokyo.ac.jp	
8	macsymba.cc.u-tokyo.ac.jp	
9	cross-compiler.cc.u-tokyo.ac.jp	

Host Number (or q for quit): 4

登録するホストを選択する

注) \* 表示がなされているものは既に利用登録が終了している事を示します。

登録が完了すると再度登録可能ホストの一覧が表示されます。

```
Host Number (or q for quit): 4

Creating your user account n30000 in x-controller1.cc.u-tokyo.ac.jp.
-- Please wait a few minutes --
Finish creating your account n30000 in x-controller1.cc.u-tokyo.ac.jp.

Host      Host Name                Host Description
Number
1  * m-unix.cc.u-tokyo.ac.jp
2  sr8000-s.cc.u-tokyo.ac.jp
3  frontend.cc.u-tokyo.ac.jp
4  * x-controller1.cc.u-tokyo.ac.jp
5  io-controller.cc.u-tokyo.ac.jp
6  scalar-mpp.cc.u-tokyo.ac.jp
7  mathematica.cc.u-tokyo.ac.jp
8  macsyms.cc.u-tokyo.ac.jp
9  cross-compiler.cc.u-tokyo.ac.jp

Host Number (or q for quit): q

Connection closed by foreign host.
myhost%
```

以上の手順により利用者登録する事が可能です。

初期パスワードとして、利用者登録 (newuser) で指定したものが初期設定されていますが、最初に m-unix, scalar-mpp 等に login する際に、セキュリティ上、より他人にやぶられにくいパスワードに変更するよう問い合わせしてきます。このとき以下の条件を満たすようなパスワードを設定して下さい。

- 1) 8文字で英大文字、英小文字、数字、記号を適当に混在させる。
- 2) 平易な語を使用しない(氏名、生年月日、電話番号、利用者番号、辞書にある英単語など)。
- 3) 回文(前後いづれから読んでも同じ)や単語の逆並びを使用しない。
- 4) 以前と同じパスワードは設定しない。
- 5) 指定したパスワードの先頭と末尾が数字または英大文字ではいけない。

なお、m-unix、scalar-mpp 等 newuser で登録する各システムのパスワードは別々に管理されます。

### 3.4 利用負担金見込額の変更手続き

本センターのシステムでは、ジョブ実行開始時に4月1日から当該ジョブ実行開始直前までの利用負担金の累計額をジョブ毎にチェックし、申請した見込額内であればそのままジョブを実行し、累計額が見込額と同じか超過していれば「累計額が予算額を超えている」旨の予算オーバーメッセージを表示して、当該ジョブの実行開始を拒否する（ジョブをそこで打ち切る）制御をしています。したがって、予算オーバーとなったら、以後ジョブの実行ができなくなります（計算機へのアクセスができなくなる）。

そこで、もし予算オーバーした後も計算機を利用したい場合には、利用見込額の増額手続きをして下さい。手続き方法は、本センターを所属センターとしている方は、利用見込額の増額を『大型計算機届出書』で提出し、第二センターとしている方は、自分が所属センターとしている計算機システム上の「第二センターへの利用申請コマンド」を使って本センターの利用見込額の増額申請を行って下さい。

なお、本センター計算機システムにおける課金処理（利用負担金累積処理）に関しては、「5.利用負担金制度」の章を参照して下さい。

利用負担金（課金）処理契機 （ 詳細は「5.利用負担金制度」の章を参照して下さい。 ）

- (1) 月額定額基本負担金ならびに長期ファイル  
毎月最初のサービス日に定額基本負担金および、長期ファイル (/home) について課金処理を行います。
- (2) m-vos (VOS3/FS) システム利用時の課金処理  
各セッション (TSS セッションの LOGOFF 時、バッチジョブの実行終了時) 毎に累積 (または課金) 処理を行います。
- (3) m-unix (HI-OSF/1-MJ), SR8000 (HI-UX/MPP) システム利用時の課金処理  
CPU 課金は1時間毎に累積 (または課金)、 /short ファイル課金は1日1回課金します。
- (4) scalar-mpp (SR2201:HI-UX/MPP) システム利用時の課金処理  
利用登録時および月最初のサービス日に CPU およびファイルについて月額一定額を課金します。

なお、あるジョブの実行中に他のジョブの実行終了によるジョブ課金で、実行中ジョブがあるにも係らず累積額が見込額を超えることがあります。実行中ジョブの計算処理は最後まで行われジョブ課金も行われます。また、定額基本負担金についても申請時に登録した利用負担金見込額を超えたあるいは越える場合でも課金・請求されますのでご注意ください。

### 3.5 利用者登録の取消 / 支払いコードの取消手続き

利用承認期間（利用期限）の満了以前に利用者の都合（計算機利用完了や長期の海外出張等）によって計算機の利用を中止したい場合、あるいは転退職等により利用資格を喪失した場合は、利用登録取り消しの『大型計算機システム届出書』を提出して下さい。利用登録の取り消しは、登録されている支払いコード単位の取り消しとなりますが、すべての支払いコードが取り消されると利用者の取り消しとなります。



### 3.6 超大型計算（特別クラス）の利用手続き

超大型計算用の特別クラス（ジョブクラスL）の利用を希望する場合は、『超大型計算利用届』を提出して下さい。

なお、届出書を提出後、本センターから連絡がない限り受理されたものとして下さい。利用期間は年度末までです。年度を越えて利用する場合は、新たに手続きが必要です。

また、Lクラスについては、本誌表紙裏の『ジョブクラス制限値』を参照して下さい。

### 3.7 利用に際しての注意事項

- (1) 利用の承認は申請者個人になされたものです。学術研究等に供する以外の目的に使用したり、第三者に利用させることは規程によりできません。違反の事実が判明した場合は承認を取消すことがあります。
- (2) パスワード<sup>注</sup>)は、他人に内容が漏れて不正使用などされないように、管理には十分注意して下さい。
- (3) 本センターの繁忙期は、概ね11月から2月までの期間です。超大型計算はこの期間を回避すると比較的容易に利用することができます。

注) 1998年4月1日より、UNIXシステムの利用者パスワードの変更、及びパスワードチェック機能の強化を実施しております。内容については以下の通りです。

- ・有効期間をパスワード変更後約3ヶ月と設定しています。この期間を過ぎるとloginの際にパスワードの変更が必要となります。また、パスワードを変更せずに1年以上経過するとloginが出来なくなります。
- ・login 試行回数を5回までに制限しています。連続5回以上パスワードを間違えると以下のメッセージを出力しlogin出来なくなります。

login: login name

Password: Password

Account is disabled -- see Account Administrator.

- ・パスワードとして設定する文字数を8文字としました。8文字に満たないパスワードは設定できません。

担当：共同利用掛 03-5841-2717

## 4．プログラムライブラリ及びデータベース開発等を行うために

### 4．1 ライブラリプログラム開発計画申請

本センターでは、毎年一定の計算時間をライブラリプログラム開発に当て、利用者の方々の協力を得て、自然科学、社会科学を問わず各分野で必要とされている汎用性のあるライブラリプログラムの開発を進めています。

プログラムの新規開発だけでなく、他で開発されたプログラムの移植やライブラリプログラムの改訂も対象となります。

開発計画の募集は原則として4月及び9月とし、その都度、本誌上に掲載します。申請のあった開発計画については、データベース・プログラムライブラリー専門委員会において審議しその結果を通知します。

また、既に完成したプログラムをライブラリに登録することも、ライブラリプログラムの登録の手続きにより可能です。

具体的な点についてはライブラリ担当者にお尋ね下さい。

担当・システム運用掛 03-5841-2712

### 4．2 利用者提供データベースと利用者提供データベース開発プロジェクト

利用者提供データベースは、利用者が複数の大学・学部にわたる公共性の高いデータベースについて、データベース提供者となる本センター利用者にデータベースを作成していただき、そのファイル負担金を提供者ではなく、データベースを利用した個々の利用者に負担していただく制度です。

利用者提供データベース開発プロジェクトは、提供者がデータベースを作成し、一般公開できるまでの間、センターがファイル容量等の面で便宜をはかる制度です。

なお、この両制度の適用にあたっては、データの公共性等について、データベース・プログラムライブラリー専門委員会の審査を経ることになっています。

担当・システム管理掛 03-5841-2713

## 5．利用負担金制度

### 5．1 利用負担金の趣旨

本センターを運営し計算サービスを提供するための基本的な経費（大型計算機システムのレンタル費全額と運営経費の一部）については予算措置されていますが、利用者の要望に応える計算サービスを提供するためには既定の予算額に不足が生じます。このため、不足する経費を利用者の計算利用量に応じて負担していただくものとして「利用負担金」制度を設けています。

この利用負担金の額は、利用者が負担でき得る範囲を考慮し、併せて計算機システムの効率的な利用の促進や消耗品等の使用の適正化を促すための考慮をしたものとなっています。

また、本センターの運営費を補える利用負担金は、国立学校特別会計の「校費」です。従って、国立学校特別会計では校費をもって負担していただき、その他の経費での利用は科学研究費及び奨学寄附金（委任経理金）を除き原則として認めておりません。このことから、公・私立学校等においても前記の性格をもつ「学校経費」で負担していただいて公平を期し、他の経費（私費等）での利用は認めておりません。

## 5.2 利用負担金の額と計算方法

最新の利用負担金の額は本誌の表紙裏もしくは、Web (<http://www.cc.u-tokyo.ac.jp>) に記載されています。

基本負担金 <sup>*1</sup>		(1999年5月1日変更)				
		月額 1,000円定額 月額 2,000円定額				
項目	機種	MP5800/320		SR8000	SR2201	
		VOS3/FS, HI-OSF/1-MJ(UNIX)		HI-UX/MPP(UNIX)		
C	月額	10時間(36,000秒)/月まで 無料	10時間(36,000秒)/月まで 無料	1PE ~ 64PE <sup>*3</sup>	9,000円/月	
	1,000円	10時間/月を超えた場合 0.3円/秒 50時間/月を超えた場合 課金しない	10時間/月を超えた場合 0.02円/秒 6,000時間/月を超えた場合 課金しない	65PE ~ 128PE 129PE以上	29,000円/月 69,000円/月	
P	月額	30時間(108,000秒)/月まで 無料	30時間(108,000秒)/月まで 無料	1PE ~ 64PE <sup>*3</sup>	8,000円/月	
	2,000円	30時間/月を超えた場合 0.3円/秒 40時間/月を超えた場合 課金しない	30時間/月を超えた場合 0.02円/秒 5,000時間/月を超えた場合 課金しない	65PE ~ 128PE 129PE以上	28,000円/月 68,000円/月	
ファイル	月額	長期保存ファイル (LD, /home) 50MB/月まで 1.25GB未満まで 1.25GB以上	無料 (4GBを上限として申請可能) <sup>*4</sup> 20円/(月・MB) 24,000円/月	利用者が指定したファイル使用量の上限値を下記単価に適用させる。		
		短期保存ファイル(SD, /short)	5円/(月・MB) <sup>*5</sup>	長期保存ファイル(/home)		
	月額	長期保存ファイル (LD, /home) 100MB/月まで 1.0GB未満まで 1.0GB以上	無料 (4GBを上限として申請可能) <sup>*4</sup> 20円/(月・MB) 18,000円/月	10MB以下	100円/(月・MB)	
		短期保存ファイル(SD, /short)	5円/(月・MB) <sup>*5</sup>	10MB超 ~ 50MB以下 50MBを超えた場合	60円/(月・MB) 30円/(月・MB)	
MTLファイル(VOS3のみ)		900円/(月・巻)	短期保存ファイル(/short)			
データベース	利用者提供データベース					
	各データベースを呼び出す都度		20円/回			
	センター提供データベース(CASTOR)					
	所在情報を伴う文献の表示		95.45円			
	所在情報を伴わない文献の表示		32.2円			
CA抄録番号のみ表示		12.65円				
化学物質登録番号以外の検索語		179.4円				
プリンター出力	超高画質カラープリンター (用紙)		100円/枚			
	(OHP)		150円/枚			
	低解像度ネットワークカラープリンター		500円/回			
	プリンタープロッター		2円/インチ			
レーザ式プリンター(連続紙1枚、カット紙片面)		3円/ページ				

\*1基本負担金はシステムに関係なく負担金コードに対して請求する。また、月途中での基本負担金の変更は認めない。

\*2SR8000のCPU時間は1CPU当たり1GFlops相当に換算したものである。なお、要素並列処理などノードを占有する場合のCPU時間は1ノードあたりノード占有時間×8として計算する。

\*3同時に占有可能な最大PE数を示す。超並列コンピュータを月途中で変更した場合は下記の日割り計算となる。  
(占有による月額負担金 ÷ 当該月の暦日数 × 利用日数) 端数切り上げ。

\*4長期保存ファイルは利用者が指定したファイル使用量の上限値を単価に適用させる。また、月途中での増加は認めるが、減らすことは認めない。月途中での増加は日割り計算となる。また、複数の負担金コードを有し、一方が1,000円、片方が2,000円の定額利用を選択した場合は2,000円の定額利用を適用する。  
UNIXでは /home のファイルである。

\*5短期保存ファイルは15日間(作成日およびサービス休止日を含む)を限度として保存され、この間に利用者が消去しないと15日目のシステム停止時に消去される。  
UNIXでは /short のファイルである。

・一ヶ月の利用負担金額は上記区分に従い算出した利用負担金の合計に各区分共通負担額として合計額の5/100を乗じて得た額を加算したものである。

## 5.3 定額基本負担金

利用負担金制度の内容が1999年5月1日より変更され、新たに定額基本負担金方式が導入されました。なお、本制度における注意点を以下に示しておきます。

定額基本負担金額を変更したい場合は、本センターに『大型計算機システム届出書』の定額基本負担金額欄に利用したい定額基本負担金額をご記入下さい。ご記入がない場合、または、申請できる金額以外を指定している場合には、月額1,000円にて利用登録設定をさせていただきます。なお、月額1,000円から2,000円、または月額2,000円から1,000円への月途中での変更はできません。また、第二センターとして本センターに利用申請を行った場合は、月額1,000円での利用として初期設定されておりますので月額2,000円に変更する場合は本センターに『大型計算機システム届出書』の提出が必要です。

定額基本負担金額を月額 1,000 円とした場合は、1 年間に最低利用負担金が 12,000 円（税別）がかかります。

定額基本負担金額として選択した負担金を利用の有無にかかわらず毎月課金させていただきます。課金の総額が利用負担金見込額を越えた場合は、計算機の利用ができなくなりますので、利用負担金見込額の増額申請を行って下さい。なお、課金の総額が利用負担金見込額を越えている場合でも利用取り消し手続きを行わない限り定額基本負担金及び長期保存ファイル課金は毎月課金されますので十分ご注意下さい。

長期データセットを定額基本負担金に含まれる上限値容量を越えて利用したい方は、VOS3 システムの場合は『大型計算機システム届出書』に必要事項をご記入の上、本センター総合受付へ提出して下さい。UNIX 系システムでは newuser による申請となります。なお、月途中での増加処理は行いますが、減量申請については毎月初めのサービス運転初日に容量変更を行います。（ただし、処理時点での長期ディスク容量が減量した値以上に保有していた場合は減量処理を行いませんので十分ご注意下さい。）

定額基本負担金内で利用できる長期データセットの容量以上に長期データセットをご利用の場合は、各利用者が宣言した値（VOS3 では届出値、UNIX 系では newuser で指定した値）を使用したと見なして課金をさせていただきます。

複数支払いコード（課金番号）を有し、別々の定額基本負担金コースを選択された場合は、CPU につきましては、それぞれの値が設定されますが、長期データセットにつきましては月額 2,000 円定額利用のものを適用します。

長期データセットについては、複数支払いコード（課金番号）を持っている場合でも定額基本負担金に含まれるデータセットの上限値は増えません。なお、定額基本負担金内で利用可能なデータセット容量以上にご使用の場合のデータセットに係る課金は、長期データセット容量の増額処理または毎月初めのサービス運転時点での標準支払いコード（課金番号）より課金させていただきますので十分ご注意下さい。

#### 5.4 利用負担金の通知と支払方法

(1) 国立学校特別会計の「校費」で利用した計算機利用負担金は、1月～3月分を4月に、4月～6月分を7月に、7月～9月分を10月に、10月～12月分を翌年1月というように、年4回に分けて利用者が所属する大学等の経理部（課）長あて、本学内にあっては所属の部局長あてにそれぞれ通知し、本学の事務局経理部を通じての予算の移し替えで清算（支払）されます。

(2) 公・私立大学経費及び文部省科学研究費については、毎月分を通知と併せて経理責任者又は支払責任者（科研費利用分）に請求（東京大学歳入徴収官が発する納入告知書による）します。この納入告知書をもって日本銀行本・支店、代理店又は歳入代理店（市中銀行に歳入代理店窓口があります）に納入期限までにお支払いいただくことになります。

## 5.5 利用負担額（課金情報）の表示

利用負担額（課金情報）については、VOS3 バッチジョブはプリンタ用紙の最後に出力される花文字ページに、TSS ジョブでは終了時のメッセージにそれぞれ表示されます。また、予算額及び現在までの実算額（利用額）などの情報は VOS3 システムでは「TRLIST コマンド」、前月までの情報は「FARE コマンド」によって随時問い合わせることができます。また、利用負担金制度の内容が 1999 年 5 月 1 日より変更され、新たに定額基本負担金方式が導入されましたが、これら定額利用設定情報（定額基本負担金額・現在までに利用した CPU 時間等の情報）は、「COURSECK (または LA) コマンド」、m-unix では「la コマンド」でこれらの情報を確認できます（表示される内容については、以下の表示例を参考にして下さい。また、表示内容については変更になる場合がありますので、あらかじめご承知おき下さい）。

TRLIST、FARE コマンドについては、本センター発行の『VOS3 システムコマンドマニュアル』を参照して下さい。

### (例) VOS3 TRLIST 出力例

```
>> TRL USERRESULT
USER NAME ----- N30001                GROUP ----- #G3001
BUDGET OPTION ---  DSMG ,    BGTMG
BUDGET FLAG - 00 BUDGET -           0(0)                JOB-COUNT        2(100)
NON-TEMP DS      201840(9999999)    NO.OF NON-TEMP DS ----- 115(30000)
ATTR-1 DS -      113622(1000000)    ATTR-2 DS ---          88218(1000000)
NO.OF BACKUP DS -----          0(0)                LAST UPDATE DATE ----- 98-06-24
LAST UPDATE TIME ----- 08:05:20    NON-TEMP(JOB)          116(9999999)
VIO DS(JOB)      0(1000)            NON-VIO(JOB)           0(300000)
NO.OF NON-TEMP(JOB) - 1(30000)    NO.OF TEMP(JOB) ----- 0(30000)
--- ACCOUNT NUMBER --- BUDGET ----- RESULT ---- FLAG ---
      A                1000000          96879    00
JDT221011 LIST USERRESULT PROCESSED
```

### (例) 定額基本負担金内で使用可能な残 CPU 時間を表示する

```
>> COURSECK                または「LA」コマンド
USERID ACT FLAG  RESULT(YEN)  BUDGET(YEN)
N30000 A  00          25,748      1,000,000
COURSE  USED-CPU  BASE-CPU  REMAIN-CPU  MAX-CTIME  R-MAX-CTIME
      1      2,222    36,000     33,778     180,000    177,778
LD-USED(KB) LD-LIMIT(KB) SD-USED(KB) SD-LIMIT(KB)
      58      51,200    1,102     9,999,999
>>

USERID      : 利用者番号
RESULT      : 実算額
BUDGET      : 予算額
COURSE      : 定額定額基本負担金の設定値 ( 1 :月額 1,000 円 / 2 :月額 2,000 円)
USED-CPU    : 現在までに利用した CPU 時間 (毎月 1 日からの累計時間 (秒))
BASE-CPU    : 定額基本負担金内で利用可能な総 CPU 時間 (秒)
REMAIN-CPU  : 定額基本負担金内で利用可能な残 CPU 時間 (秒)
LD-USED     : 現在利用している長期データセット容量 (KB)
LD-LIMIT    : 現在の設定で利用可能な長期データセット容量 (KB)
```

(例) HI-OSF/1-MJ (m-unix) la コマンド出力例 (現在までに使用した CPU 積算時間を表示する)

```
m-unix% la
bugdet data for n30001 at Thu Apr 29 10:05:30 1999
acct      course    budget    fare     balance  cpu_used(HH:MM:SS)
*A        2000      1000000  42402    957598   25:02:49
m-unix%
m-unix% la -a      -a オプションを付けることにより全ての支払いコードを表示
bugdet data for n30001 at Thu Apr 29 10:05:33 1999
acct      course    budget    fare     balance  cpu_used(HH:MM:SS)
*A        2000      1000000  42402    957598   25:02:49
B         2000      100000   1105     98895    0:14:38

course    : 定額定額基本負担金の設定金額
cpu_used  : 総 CPU 積算時間
```

sr8000-s, sr8000-p については、上記表示例とは多少異なる場合があります。

## 5.5 標準支払いコード (標準課金番号) の変更

複数支払いコードをお持ちの方は以下の方法により標準支払いコード (標準課金番号) を変更する事が可能です。

VOS3 標準支払いコード (課金番号) を変更する

```
>> TRCH ATTR,OAC(K)      標準支払いコードを K に変更する
JET20132I CHANGE USERATTRIBUTE PROCESSED
>> TRL UATTR            標準支払いコードが K に変更されたか確認 (先頭が標準支払いコード)
DSGRPSAA(*****) DSALLSAA(NONE)
MCRGRPSAA(*****) MCRALLSAA(NONE)  MCTGRPSAA(*****) MCTALLSAA(NONE)
AUTOPROTECT      NODEST          STANDARD GROUP(#G3001)
PERIOD(**/**/**)
NOMODEL
ACCOUNT(K)
  PROCNAME ----- LOGON00    PROCSIZE ----- 3000 KB
  PROCNAME ----- LOGONFTP   PROCSIZE ----- 3000 KB
ACCOUNT(A)
  PROCNAME ----- LOGON00    PROCSIZE ----- 3000 KB
  PROCNAME ----- LOGONFTP   PROCSIZE ----- 3000 KB
JDT22120I LIST USERATTRIBUTE PROCESSED
>>
```

## UNIX 系での標準支払いコード（課金番号）を変更する

telnet 等で m-unix.cc.u-tokyo.ac.jp に接続し、newuser で login する

```
myhost% telnet m-unix.cc.u-tokyo.ac.jp ..... telnet コマンドで接続
Trying ...
Connected to m-unix.cc.u-tokyo.ac.jp.
Escape character is '^]'.

HI-OSF/1-MJ (m-unix.cc.u-tokyo.ac.jp) (tty0)

login: newuser

      System Registration Command

Enter Your (VOS3) Login name : n30001 ..... VOS3 ID を小文字で入力。
Enter Your (VOS3) Password : password ..... 利用承認通知書に記載されたパスワードを小文字で入力。
```

## 標準支払いコードを変更する計算機の番号を指定する

Host Number	Host Name	Host Description
1	m-unix.cc.u-tokyo.ac.jp	
2	sr8000-s.cc.u-tokyo.ac.jp	
3	frontend.cc.u-tokyo.ac.jp	
4	x-controller1.cc.u-tokyo.ac.jp	
5	io-controller.cc.u-tokyo.ac.jp	
6	scalar-mpp.cc.u-tokyo.ac.jp	
7	mathematica.cc.u-tokyo.ac.jp	
8	macsyma.cc.u-tokyo.ac.jp	
9	cross-compiler.cc.u-tokyo.ac.jp	

Host Number (or q for quit): 1 ... 利用するホストの番号を入力。

## 標準支払いコードを変更するので「3」を指定する

```
Select an item number that you want to do.

1. User Account Registration
2. User Account Deletion
3. Account Code Change
4. Increase File Size Limit
5. Decrease File Size Limit
Item Number (or q for quit): 3 ... 処理する項目を指定。例では標準
                               支払いコードを変更している。
```

メッセージに従って標準支払いコードを変更する。

```
Account Code Change

Enter Your (m-unix.cc.u-tokyo.ac.jp) Login name : n30001 ... 利用者番号を小文字で入力。
Enter Your (m-unix.cc.u-tokyo.ac.jp) Password : password ... m-unix のパスワードを入力。
Available account list is the following.
acct      course   budget    fare    balance  cpu_used(HH:MM:SS)
  A         2000   1000000   42396   957604   25:02:49
  B         2000   100000    1105    98895    0:14:38

Your current account code is A. ... 現在の標準支払いコードを表示。

Specify new account code [default: A] (or quit): B ... 標準支払いコードを指定する。
Specified Account code is B. Is it ok? [default : y]: y ... 標準支払いコードの確認。

Fee for each month and current limit
ITEM          LIMIT    Fee(Yen/month) ... 今月のディスク容量・課金額を表示。
/home         500MB    8000
TOTAL         ---      8000

New fee for each month from next month
ITEM          LIMIT    Fee(Yen/month) ... 来月のディスク容量・課金額を表示。
/home         500MB    8000
TOTAL         ---      8000

Do you change your account code? (y/n) [default : y]: y ... 再度、標準支払いコードの変更の確認。

Note!
Your account code will be effective in several minitues. (変更までに数分かかる場合があります)
```

## 6 . 利用者旅費制度

### 6 . 1 利用者旅費の趣旨

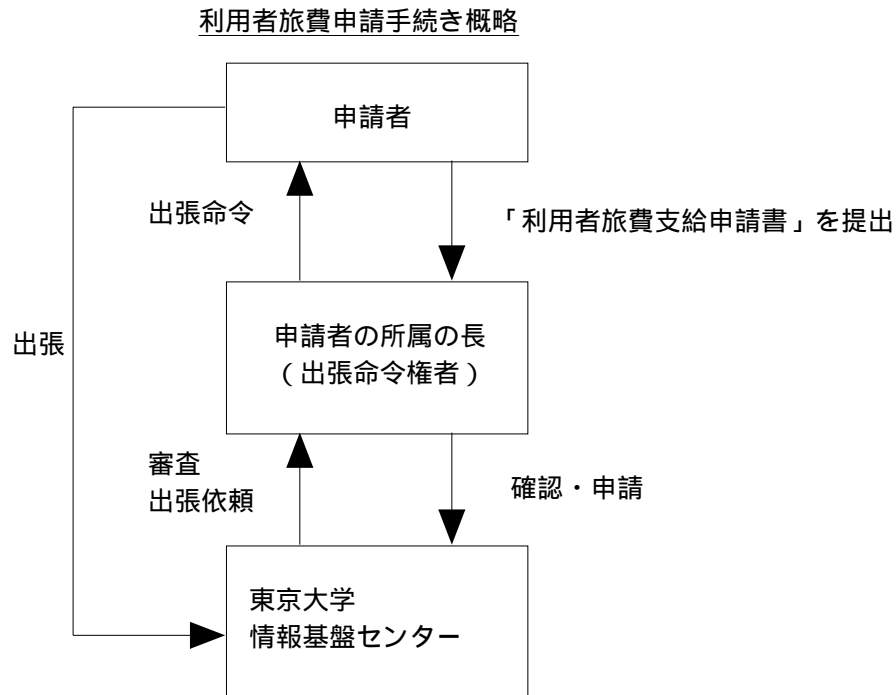
遠隔地の利用者が本センターに出向いて計算機を利用する場合、及び計算機の利用環境が望ましい状態にない遠隔地の利用者へ便宜をはかるためのもので、その利用者へ本センターから旅費を支給する制度です。

また、他の全国共同利用大型計算機センターでも同様の趣旨で運用していますが、多少異なった取扱いがなされていますので、他センターの利用はそれぞれのセンターの取扱いによります。



## 6.2 旅費の申請手続き

利用者旅費の支給を希望するときは、本センター所定の利用者旅費支給申請書を提出して下さい。申請書用紙は本センター、総合受付にあります。事務手続き上、「利用者旅費支給申請書」は、本センター利用希望日の少なくとも10日前までに必着するよう日数に余裕を持って提出して下さい。なお、サービス休止日及び閉館日の月末処理日、土・日曜・祭日・年末年始およびそれを間にはさんでの利用はできません。



## 6.3 旅費申請の審査と支給基準

利用者旅費の申請書を提出した者に対し、本センターで申請理由を審査し、旅費予算の範囲内で承認します。

なお、申請書には「出張利用の必要理由」を具体的に記入して下さい。この際、所属機関に計算機がある場合、及びネットワークを介しての本センター利用が可能であるにもかかわらず、それらを利用できない場合は、その理由を明確に記入して下さい。審査の結果、承認された場合は所属機関長宛に出張を依頼します。

なお、下記の場合は支給対象外となります。

- イ) 文部省科学研究費補助金、産学連携等研究費及び委任経理金によって利用する場合
- ロ) 東京都23区内に在勤又は現住所がある方(23区内を通過して通勤している者を含む)
- ハ) その他、出張理由が適当と認められない場合

## 6.4 出張時の手続きと旅費の支払方法

- (1) 出張期間中は毎日、計算機を利用する前に必ず総合受付(本館1階)の窓口で出張利用簿に押印して出張の確認を受けて下さい。また、出張利用報告書をお渡ししますので、出張期間最終日に必要事項をご記入の上、総合受付へ提出して下さい。
- (2) 旅費は計算機の利用を確認した上で、銀行振込みとなります。銀行振込依頼書は総合受付にありますので、振込先の銀行口座番号等所定の事項を記入して共同利用掛へ提出して下さい。

## 7. 大型計算機システムについて

### 7.1 センターの計算機システム紹介

本センターには、汎用大型計算機、ベクトル並列型スーパーコンピューター、超並列型スーパーコンピューターがあります。以下にそれぞれのハードウェア構成の概略を示します。

#### 汎用大型計算機

HITACHI MP5800/320 3 プロセッサ、総記憶容量（主記憶 + 拡張記憶）：10 GB  
磁気ディスク装置：約 1732GB  
磁気テープ装置：オープンリール型 6250/1600 BPI：3 台  
カートリッジ型 200MB,800MB/巻（非圧縮時）：8 台  
DAT, QIC, 8mm：各 1 台  
磁気テープライブラリー装置：1 台（カートリッジ MT 4884 巻収納、800MB/巻（非圧縮時））  
プリンター：連続紙 2 台、カット紙 3 台、ポストスクリプト（モノクロ、カラー）4 台

#### ベクトル並列型スーパーコンピューター

HITACHI SR8000 ノード総数：128 台  
1 ノード当たりの主記憶容量：8GB、総主記憶容量：1024GB  
1 ノード当たりの理論演算性能：8GFLOPS、総理論演算性能：1024GFLOPS  
ノード間を結ぶネットワーク性能：（片方向）1GB/秒、（双方向）2GB/秒  
磁気ディスク装置：約 2227 GB

#### 超並列型スーパーコンピューター

HITACHI SR2201 ノード総数：1024 台  
1 ノード当たりの主記憶容量：256MB、総主記憶容量：256GB  
1 ノード当たりの理論演算性能：300MFLOPS、総理論演算性能：307.2 GFLOPS  
ノード間を結ぶネットワーク性能：（片方向）300MB/秒  
磁気ディスク装置：約 1049 GB

#### ソフトウェア

上記システム上で利用できるソフトウェアには以下のものがあります。

##### 汎用大型計算機 (MP5800/320)

- ・ VOS3/FS システム（VOS3 TOOL コマンドシステム）
  - 言語プロセッサ：FORTRAN77, PL/I, PASCAL, C, LISP, PROLOG, REDUCE 他
  - 言語プロセッサ支援ツール：FORT/ASSIST 他
  - 文書処理：（エディター）ASPEN, DESP, QED  
（英文清書）RUNOFF 他 （和文清書）DEDIT, DROFF 他
  - 数値計算：MATRIX, MSL2, IMSL, NUMPAC, SALS, NCARL 他
  - 統計計算：SAS, SPSS, HISTAT, HIPACS, BMDP 他
  - 図形処理：GPSL(Calcomp仕様), KGRAF(GKS仕様), NCAR Graphics 他
  - 構造解析：MSC/NASTRAN, ISAS2 他 分子計算：GAUSSIAN86, GAMESS, MOPAC93 他
  - データベース：CASTOR
  - ネットワーク：TELNET, FTP 他

・ HI-OSF/1-MJ システム

シェル ( コマンドインタプリター ) : sh, csh, tcsh

言語プロセッサ : C, C++, FORTRAN77, PASCAL, LISP, PROLOG

数値計算 : MATRIX/M, MATRIX/M/SSS, MSL2      シミュレーション : DEQSOL

図形処理 : GKS(C,F)      文書処理 : vi, jvi, emacs, nemacs, TeX, LaTeX

メール、ニュース : mail, mh, mh-e, rn, gnus

ウィンドウ : X11R5, Motif      ネットワーク : telnet, ftp, rlogin, rcp, kermit

ベクトル並列型スーパーコンピューター (SR8000)

HI-UX/MPP システム

シェル ( コマンドインタプリター ) : sh, csh

言語プロセッサ : FORTRAN77, FORTRAN90, 最適化C, 最適化C++ 他

数値計算 : MATRIX/MPP, MATRIX/MPP/SSS, MSL2

並列化支援 : リモート DMA 転送, HPF, PARALLELWARE, MPI-2, PVM 他

超並列型スーパーコンピューター (SR2201)

HI-UX/MPP システム

シェル ( コマンドインタプリター ) : sh, csh

言語プロセッサ : FORTRAN77, FORTRAN90, 最適化C, 最適化C++ 他

数値計算 : MATRIX/MPP, MATRIX/MPP/SSS, MSL2      構造解析 : ISAS2

分子計算 : GAUSSIAN94

並列化支援 : リモート DMA 転送, HPF, PARALLELWARE, MPI, PVM 他

## 7.2 システム構成図

( 図 1 にシステム構成図を示します。 )

## 7.2 オープン入出力装置の配置

利用者がセンター内で自由に使用することのできる入力機器、出力機器、また入力と出力の両方に使える機器をまとめてオープン入出力装置と言います。

主なオープン入出力装置の設置場所、機器、設置台数等は次のとおりです。

( 図 2 に本センターの端末室配置図を示します。 )

装置	機器名称	システム		端末室	磁気テープ室	出力室	備考
		VOS3	UNIX				
端末	T-560/20 (HT-4411N)				8		
	2020			11			
	3010			2			
	Power Macintosh 6100			2			
	NEC PC-9801			2			
	VX220-101 (X window)			18			カラーディスプレイ
プリンタ	H-8172 (A4 サイズ連続紙)					1	
	H-8172 (B4 サイズ連続紙)					1	
	H-8174 (A4,A3,B4,B5)					1	
	H-6284 (A4,A3,B4,B5)					1	両面印刷可
	H-6286 (A4 専用)					1	両面高速印刷可
	LP7200-UX (A4,A3,B5,B4)			2			片面、両面印刷可
	PictroGraphy 3000 (カラー)			2			ペーパー、OHP 印刷可
	XEROX 4036					1	ロール紙
	SII EP-4020 (カラー)					1	ロール紙
磁気テープ	オープンリール型				3		UNIX 用 1 台
	200MB CMT (H-6581-1)				4		UNIX 用 1 台
	800MB CMT (H-6588-1)				4		UNIX 用 1 台
	DAT, 8mm, QIC				1		各 1 台

#### 計算機運転時間

MP5800 (VOS3/FS, HI-OSF/1-MJ) システム、SR8000 (HI-UX/MPP) システム

原則として24時間サービスを行っています。ただし毎月月末処理日はシステムを停止します。

\* 月末処理日は原則として月末日に行いますが、当該日が土・日曜日（祝祭休日を含む）の月はその前日となりますのでご注意ください。

SR2201 (HI-UX/MPP) システム

原則として24時間サービスを行っています。ただし原則として毎月第一土・日曜日は 1024PE によるジョブ処理サービスを行います。

ただし、3, 6, 9, 12月の月末処理日（月末処理日が土・日曜日に当たる時は金曜日）はハードウェア定期保守のため終日システムを停止します。またこの他にもOS等ソフトウェアのバージョンアップや停電等により止むを得ず停止することがありますので、これらの予定は隔月に発行している本誌「スーパーコンピューティングニュース」に掲載します。また、LOGON/login後のメッセージ及びWeb、Netnewsでもお知らせします。

**【注意事項】**

17時以降及び休日（土・日・祝日）、年末年始は自動運転システムによる自動運転のため、万一システム障害等でサービスが停止した場合、運転を継続出来ない場合が考えられます。その時は、その時間をもってサービスを中止しますのでご了承下さい。

館内サービス時間（祝祭休日、月末日及び年末・年始を除く）

	月～金曜日
総合受付	9:00～12:00, 13:00～16:45
オープン入出力室と館内TSSサービス	9:30～17:15

### 7.3 大型計算機システムへの接続方法

利用者が大型計算機システムへ接続する方法として以下の方法があります。

- ・センター内端末を利用する
- ・ネットワークを経由して接続する
- ・電話回線を経由して接続する

#### 7.3.1 センター内端末を利用

本センター 1 階のオープンフロアには、VOS3 用端末としてパーソナルワークステーション 2020 ・パーソナルコンピュータ端末 3010 があります。これらの端末を利用する方法は、

1. 端末装置の電源を投入します。
2. 端末の割込キーと送信キーを押下します。以下のようなメッセージが出力されるので、利用者番号・パスワードを入力します。このときパスワードは出力されません。

```
JCT54012A ENTER LOGON
JET12012A ENTER USER ID -
```

また、m-unix、sr8000-s、sr8000-p、scalar-mpp 等を利用するために X 端末(VX220-101) が用意されています。

これらの端末を利用する方法は、

1. X 端末の電源を投入します。
  - 1) 本体左下のスイッチを押下します (ON の時、緑色のランプが点灯します)。
  - 2) ディスプレイ右下のスイッチを押下します (ON の時、緑色のランプが点灯します)。

(セルフチェックを行います。2分ほどお待ち下さい。)

2. X が起動します。

```
Welcom to the X Window System
Login :
Password:
```

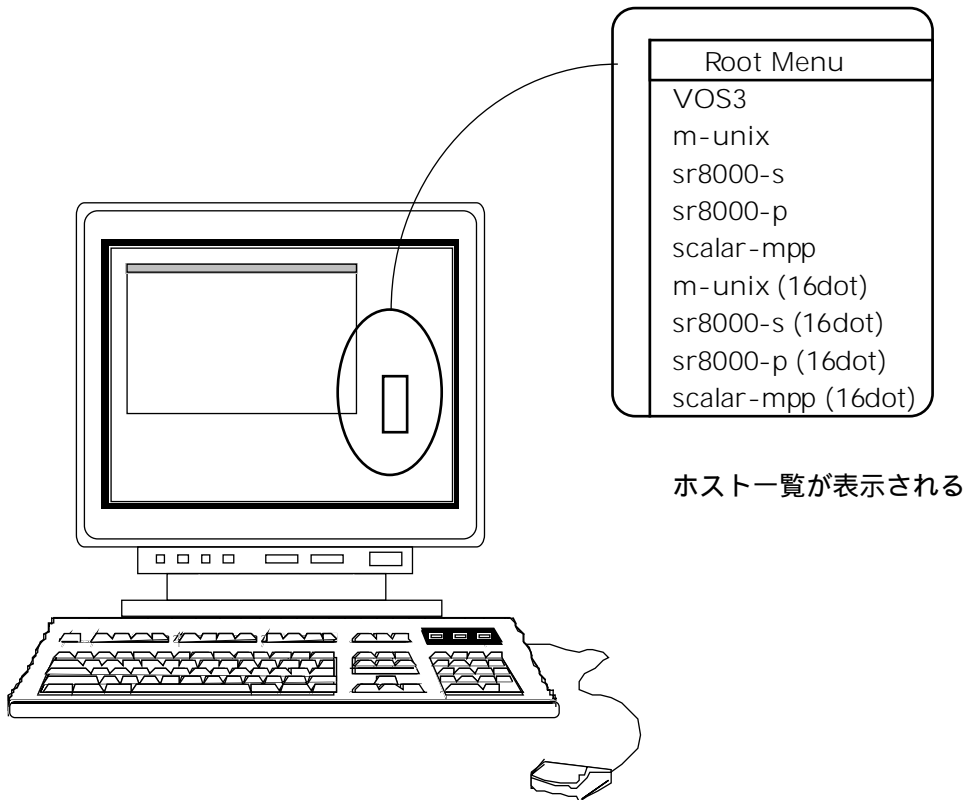
login: 利用者番号  
Password: パスワードの入力

なお、この X 端末を利用する為には、前もって x-controller1.cc.u-tokyo.ac.jp に登録しておく必要があります。

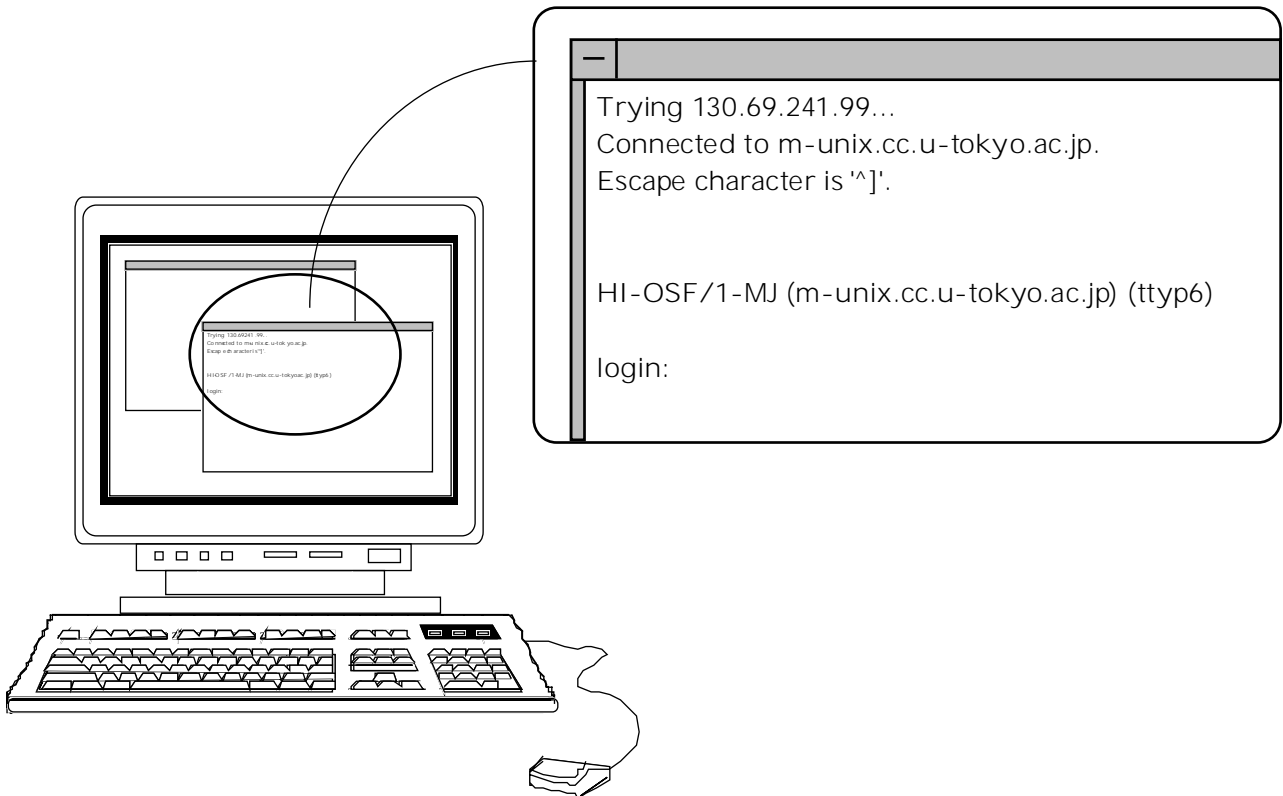
3. x-controller1.cc.u-tokyo.ac.jp のウィンドウが起動されます。

```
Welcom to HI-UX.
[1]%
```

4. ウィンドウの外でマウスの右ボタンを押下します。



5. 右ボタンを押下しながら、login するマシンを選択します。  
(m-unix を選択すると m-unix のウィンドウが起動します。)



### 7.3.2 ネットワークを經由して接続

東京大学情報ネットワークシステム (UTnet) または、TCP/IP プロトコルによるネットワークを經由して本センターの計算機システムを利用するには、telnet コマンド等の接続先として下表のホスト名を指定して下さい。

計算機	OS	ホスト名	IP アドレス <sup>*1</sup>
MP5800/320	VOS3/FS	m-vos.cc.u-tokyo.ac.jp	130.69.240.40
	HI-OSF/1-MJ	m-unix.cc.u-tokyo.ac.jp	130.69.240.41
	(OPAC) <sup>*2</sup>	opac.cc.u-tokyo.ac.jp	130.69.240.42
SR8000	HI-UX/MPP	sr8000-s.cc.u-tokyo.ac.jp <sup>*3</sup>	130.69.240.51
		sr8000-p.cc.u-tokyo.ac.jp <sup>*4</sup>	130.69.240.52
SR2201	HI-UX/MPP	scalar-mpp.cc.u-tokyo.ac.jp	130.69.240.60

\*1 IPアドレスは変更される場合がありますので、極力ドメインネームサーバーを参照し、ホスト名でご利用下さい。

\*2 東京大学附属図書館オンライン閲覧目録サービス

\*3 スカラージョブ処理用サブシステム

\*4 要素並列ジョブを含むノード占有ジョブ処理用サブシステム

### 7.3.3 電話回線を經由して接続

モデムを用いて端末と電話回線を接続し、電話回線を介して本センターを利用する方法です。

各計算機に接続するための電話番号は以下のとおりです。電話番号は本誌「スーパーコンピューティングニュース」裏表紙裏に毎号掲載されていますので参照して下さい。

#### 電話回線利用 TSS の電話番号

(1999年4月30日変更)

通信速度 (規格)	VOS3	UNIX	VOS3 (OPAC <sup>*2</sup> )	端末側設定
1200~28800bps (V.34) <sup>*1</sup> (V.42bis, MNP クラス5)	03-3815-6391		03-3815-3241	次表 参照
1200~9600bps (V.32) <sup>*1</sup> (V.42bis, MNP クラス5)	03-3815-6561			
9600bps (V.29) (MNP クラス6)	03-3814-7245			次表 参照
2400bps (V.22bis)	03-3814-7251			
1200bps (V.22)	03-3815-6205			

\*1 速度の切り替えは端末側のモデムに合わせて自動的に行われる。

\*2 東京大学附属図書館オンライン閲覧目録サービス。



また、パソコン等を端末として各ホストを利用するための設定は以下のとおりです。

#### 電話回線利用時の端末側基本設定

設定項目	設 定 内 容	
データー長	8ビット	7ビット
パリティ	なし ( NONE )	偶数 ( EVEN )
ストップビット	1ビット	
エコー	リモートエコー	UNIX はリモートエコー VOS3 はローカルエコー
文字コード	UNIX は JIS コード VOS3 は JIS,SHIFT-JIS, EUC コードの選択が可	JIS コード

## 7.4 データベース

### 7.4.1 センター提供データベース

データベース名 (コマンド名)	データ内容及び原作成者	オンライン化され ているデータ量	データ更新 サイクル
CASTOR <sup>*1</sup>	化学に関する文献情報 ( 化学物質に関する情報を含む )。 アメリカ化学会 Chemical Abstracts Service 発行の CA Condensates および CA Search。	1976 年 1 月以降  1,150 万件  70 万件 / 年	毎週

\*1: マニュアル「化学文献データベース検索システム CASTOR (第 2 版)」を参照。

## 7.4.2 利用者提供データベース

データベース名 (コマンド名)	データの内容・機能	提供者	マニュアル
PDB	蛋白質構造データバンク。 蛋白質結晶の原子座標データ。 Brookhaven 国立研究所作成。 データ 7,000件。	東大・理・化学 田隅三生	センターニュース 1983/7 p.92  オンラインマニュアル
XDCUTL	データベース XDC 関係ユーティ リティ・プログラム・パッケージ。 英国ケンブリッジ大学結晶データ センター発行のデータベースと、 同センター作成の検索システム。	帝京科学大学 飯高洋一	センターニュース 1983/12 p.69 1987/3 p.42  オンラインマニュアル
NUCDB	核酸塩基配列データベース。 EMBL ファイルを原データとする 核酸の一次構造。 データ 190 万件	東大・大型計算 機センター 小澤宏	センターニュース 1988/10 p.67  オンラインマニュアル
PSDB	蛋白質アミノ酸配列データベース。 NBRF-PIR ファイルを原データと する蛋白質の一次構造。 データ 8.4 万件	東大・大型計算 機センター 小澤宏	センターニュース 1988/10 p.67  オンラインマニュアル

## 7.4.3 データベース負担金

### (1) センター提供データベース (CASTOR)

センター提供のデータベースについては、センターが原データ作成者に払う使用料金の内、従量制使用量の 115% に相当する金額を「データベース利用に係る利用負担金」として利用者に負担して頂きます。

なお、最新の負担金については本誌「スーパーコンピューティングニュース」表紙裏もしくは Web 等を参照して下さい。

### (2) 利用者提供データベース

利用者提供のデータベースについては、セッション 1 回につき 20 円のデータベース使用料を負担していただきます。

## 7.4.4 利用手続き

本センターから利用者番号を受けたユーザは、データベース XDCUTL を除き、特別な手続きなしに、データベースをご利用頂けます。XDCUTL の利用にあたっては、ライセンス同意書への署名が必要ですので、書式をシステム管理掛に請求して下さい。

## 8 . 利用をサポートするもの

### 8 . 1 総合受付

本センター1階の総合受付では、各種申請用紙および本センター発行の利用の手引等を準備して利用者に提供するとともに、利用申請書等の受付などの問い合わせに応じています。

本センターを利用するにはどのような手続きが必要か、本センターの提供しているサービスには何があるかなどは総合受付にお尋ね下さい。

電話、電子メールによる問い合わせにも応じています。

\* 電話 03-5841-2716

\* 受付時間 月曜日～金曜日（サービス休止日、祝祭休日及び年末・年始を除く）

9 : 0 0 ~ 1 2 : 0 0 1 3 : 0 0 ~ 1 6 : 4 5

\* 電子メールアドレス uketuke@cc.u-tokyo.ac.jp または、  
uketsuke@cc.u-tokyo.ac.jp

### 8 . 2 スーパーコンピューティングプログラム相談室

本センターでは月曜～金曜の14:00～16:00まで（サービス休止日、祝祭休日及び年末・年始を除く）プログラム指導員が、利用方法およびプログラムの内容やエラーについての相談に応じています。

相談する際は、相談室に備え付けの「プログラム相談票」に所定事項を記入の上、担当指導員に必ず提出して下さい。特定の相談については、担当者、専門分野および時間帯を確認して下さい。ただし、指導員の都合によりスケジュールが変更される場合もあります。

相談室では、指導上必要なマニュアル類を常備していますが、これらの室外持出は厳禁です。

また、ネットワークの普及により館外からの計算機利用が増大していることから、新たに電子メールによるプログラム相談を1997年4月より実施しております。電子メールによるプログラム相談は、従来から行っていますプログラム指導員制度を補完するシステムであることを想定しておりますので、

利用者番号

所属機関 / 所属部署名

氏名

相談内容（具体的に）

を本文中に明記の上、「soudan@cc.u-tokyo.ac.jp」に内容をお送り下さい。

なお、内容によっては回答まで時間がかかるものもありますのでご承知おき下さい。

プログラム相談員、電子メール相談員の相談分野については、本誌「スーパーコンピューティングニュース」の5月号、11月号に担当時間を含めた情報が記載されます。

## 8.3 情報資料室

本センター別館1階に情報資料室(書庫のみ)があり、貸出に応じています。書庫には計算機、情報科学関係を中心に図書及び和洋雑誌、並びに各種マニュアル類、各大型計算機センターのセンターニュース等の資料があります。開室時間は下記のとおりです。

月曜日～金曜日(祝祭休日及び年末・年始を除く)  
9:00～12:00 13:00～16:45

書庫内の資料の閲覧を希望される場合は、総合受付に「学生証」又は、「身分証明書」を提出し、「入室者名簿」に記入して下さい。掛員が書庫に案内します。

利用終了後は、再び総合受付にお知らせ下さい。その際、預かった「学生証」又は「身分証明書」をお返しいたします。

また、貸出を希望する場合で、学内利用者は所属学部(学科)図書室で発行した「借用証」が必要です。学外利用者は「学生証」又は「身分証明書」を提示の上、上記に示した業務時間内に総合受付で貸出手続きを行って下さい。なお、複写サービスは行っていませんので、貸出手続きをした上で、著作権法による範囲内で各自で複写して下さい。

### 【情報資料室を使用する際の注意事項】

書庫内に鞆等の持ち込みはできません。総合受付でお預かりさせて頂きます。その際、貴重品等をご自分でお持ち下さるようお願いいたします。

## 9. センターの刊行物

### 9.1 センター発行の利用の手引

利用者に本センターの各種情報を提供するため、次のような刊行物を発行しています。

1999年1月現在

#### 請求番号

- (1) 全国共同利用大型計算機センターオンライン・データベース利用ガイド(第18版) (1999.1)
- (3) 東大センターにおけるUNIXシステム入門(第2版) (1996.7)
- (5) STERICI(立体化学計算プログラム)の使い方 (1983.3)
- (8) 化学文献データベース検索システムCASTOR(第2版) (1995.10)
- (18) VOS3システムコマンドマニュアル(第5版) (1994.4)
- (20) FORTRANプログラムデバッグの手引(VOS3編)(第5版) (1995.3)
- (21) Prolog/KR User's Manual (1983.3)
- (22) 文書清書の手引 (1992.8)
- (23) 研究会論文集「地域ネットワークの課題」 (1992.7)
- (25) 第2回スーパーコンピューターと数値シミュレーションシンポジウム報文集 (1985.2.1-2)
- (26) REDUCEプログラミング資料 第1集 (1984.3)
- (27) REDUCEプログラミング資料 第2集 (1985.3)
- (28) REDUCEプログラミング資料 第3集 (1986.3)
- (29) REDUCEプログラミング資料 第4集 (1987.3)

- (35) 研究論文集「地域ネットワークの新しい展開と県域ネットワーク」 (1994.11)
- (42) 非線形最適化問題のためのアプリケーションシステム ASNOP 利用の手引 (1988.7)
- (43) スーパーコンピュータ用 NUMPAC - ベクトル版 - 利用の手引 (第 2 版) (1995.11)
- (44) BESPAC ベッセル関数プログラムパッケージ利用の手引 (1990.7)
- (46) ドットプリンターへの図形出力パッケージ VPAINT 利用の手引 (1985.7)
- (48) GSCF3 利用の手引 (SCF 部分) (1986.12)
- (49) GSCF3 利用の手引 (CI 部分) (1989.12)
- (50) 結晶構造解析ユニバーサルプログラムシステム UNIC3 利用の手引 (1989.2)
- (51) X線結晶解析プログラム利用の手引 (SHELXS76, SHELXS86, PATSEE) (1989.1)
- (52) 結晶内電荷分布解析プログラムシステム CHARGE システム利用の手引 (1986.9)
- (53) 殻模型計算プログラム OXBASE 利用の手引 (1989.2)
- (54) 新離散化モデルによる地盤基礎の動的極限解析プログラム RBSM 利用の手引 (1986.7)
- (55) AMISPACK 利用の手引 (1984.1)
- (56) 行列演算用言語 LAMAX-E 利用の手引 (第 2 版) (1987.12)
- (57) GAUSSIAN-86 利用の手引 (1991.11)
- (58) 多倍長計算プログラムパッケージ MPPACK の手引 (1992.8)
- (59) 非線形最適化問題のためのアプリケーションシステム ASNOP3 利用の手引 (1992.10)
- (60) スーパーコンピュータ用殻模型計算プログラム VECSSSE 利用の手引 (1994.3)
- (61) 非線形方程式および非線形最小 2 乗問題解法プログラム MINPACK 利用の手引 (1995.11)
- (70) プログラム・ライブラリ利用の手引 (第 8 版) (1992.7)
- (72) センターニュース VOL.18 Supplement 2 ライブラリプログラム (1986.10)
- (73) センターニュース VOL.19 Supplement 1 ライブラリプログラム (1987.6)
- (74) センターニュース VOL.20 Supplement 1 ライブラリプログラム (1988.8)
- (75) センターニュース VOL.21 Supplement 1 ライブラリプログラム (1989.9)
- (76) センターニュース VOL.22 Supplement 1 ライブラリプログラム (1990.9)
- (77) センターニュース VOL.22 Supplement 2 ライブラリプログラム (1990.11)
- (78) センターニュース VOL.24 Supplement 1 ライブラリプログラム (1992.10)
- (79) センターニュース VOL.27 Supplement 1 ライブラリプログラム (1995.2)
- (80) センターニュース VOL.28 Supplement 1 ライブラリプログラム (1996.6)
- (81) 社会科学統計パッケージ SPSSX 利用の手引 (1990.12)

上記の手引を希望する方は、1階総合受付へ直接または電話(03-5841-2716)で請求するか、あるいはハガキ等で「希望する手引名(請求番号も忘れずに)」、「利用者番号」、「氏名」を明記のうえ、共同利用掛・総合受付までお申し込み下さい。

以下はオンライン・マニュアル(VOS3: MANUAL コマンドでプリンターに出力)です。

オープン磁気テープシステム利用の手引  
 ネットワーク利用の手引 (第 3 版 1989.6)  
 図形出力ライブラリ GPSL 利用の手引  
 VOS3 ASPEN HELP  
 VOS3 ASPEN MESSAGE

## 9.2 スーパーコンピューティングニュース

本誌「スーパーコンピューティングニュース」は計算機利用申請時に希望があれば毎号送付します（隔月）。システムの仕様変更、運営に関する事項、研究会のお知らせ、各種プログラムパッケージの使用法、コマンド説明、毎月のジョブ統計、その他利用者からの要望・質問等々、本センターをより効率的に利用するための最新情報を掲載しています。

また、次の要領で皆様の寄稿をお待ちしています。

締切：偶数月15日締切りで、翌月中旬に発行する予定となっています。

用紙：B5版サイズで文字の大きさ9ポイントを標準に使用し、印字部分は必ず左端を2.5cm以上空けて、縦21cm、横14cmになるようにして下さい。

枚数：原稿枚数には特に制限はありませんが、量によっては分割して掲載する場合があります。

図・表：印刷を鮮明にするため、できるだけコピーではなくオリジナルをつけて下さい。

宛先：本センター、「スーパーコンピューティングニュース」編集部

（\*詳細は「スーパーコンピューティングニュース」掲載の原稿募集・執筆要項を参照して下さい。）

## 9.3 年報

各年度毎の研究開発及び共同研究の成果、本センター運営記録、その他計算機稼動状況のまとめなどを掲載しています。

## 10. 本センターに対する意見・要望等

本センターに対する意見、要望などがあれば、本センター共同利用掛へ提出して下さい。その際必ず、氏名、所属、利用者番号を明記して下さい。

なお、回答を希望される場合は、本誌「スーパーコンピューティングニュース」の巻末綴込みの「質問書」をご使用下さい。

また、質問書は本センター総合受付にも用意してあります。

同様に、以下のメールアドレスでセンターに対する質問・要望等を受け付けております。

voice@cc.u-tokyo.ac.jp

なお、本文中には、利用者番号、所属機関/所属部署名、氏名、具体的な質問内容等を記述して下さい。

### 【参考】

インターネット利用によるセンター情報提供窓口として、以下のWebページがあります。

<http://www.cc.u-tokyo.ac.jp>